

# クリエイティブな映像制作で インターネットの安心安全を守る！

## 1 目的・概要

現代社会においてインターネットは老若男女問わず私たちの日常生活に欠かせない、非常に便利なツールになりました。しかしそれと同時にインターネットならではのトラブルや事件の被害件数も年々増加しています。

そこで本プロジェクトでは、インターネット上のトラブルや事件から多くの人の安心安全を守ることを目的に、トラブル・事件回避のメッセージを含む映像作品を制作・発信することで問題解決の一助になることを目指して活動を行ってきました。映像制作においては多くの人に興味関心を持ってもらい、動画を見る人がインターネットトラブルや事件を自分事として捉えてもらうために、チーム内で意見を共有しながらパロディや映像技法を駆使して細部までこだわった動画製作を行いました。

最終的には私たちが製作した動画を1人でも多くの人に見てもらいインターネットに潜む危険性を認識してもらいインターネットトラブルに対する危機意識を向上させることがインターネットの安心安全な利用につながると考えて地域との連携や外部コンテストの出演、メディアへの出演など様々な手段を用いて広報・啓発活動を行いました。



### Annual Schedule

2022年	4月	チームビルディング、今後の活動についての話し合い、インターネットトラブル・事件の事例について各自調べ学習
	5月	グループに分かれて動画製作、プレゼン、企画のブラッシュアップ
	6月	動画の企画・撮影と編集作業、SNS稼働、地下鉄広告の話し合い
	7月	動画の企画・撮影と編集作業、成果報告会準備
	10月	動画の企画・撮影と編集作業、京都府警察との打ち合わせ、コンテストへの出展
	11月	動画の企画・撮影と編集作業、ラジオ出演決定（FM丹波）、消費生活センターとの打ち合わせ、高齢者・青少年イベントの企画
	12月	動画の企画・撮影と編集作業、成果報告会準備、学内における立て看板の設置、動画の効果測定実施
2023年	1月	成果報告会準備、コンテスト出展

## 2 成果達成度

### 映像制作

制作した映像は計 17 本になりました。これらの映像は、四条駅デジタルサイネージ、京都府消費生活安全センター HP 掲載・SNS 周知・高校や大学での個別の出前講座での使用、府内大学で新入生オリエンテーションでの利用、京都府自動車運転免許試験場、動画フェスタ 2022、SNS 広報活動などで活用されることとなりました。主軸にある“インターネットの安心・安全を守る”という考え方を基に、それぞれ企画のターゲットや想定される放映場所を考慮し、さまざまな工夫を映像に取り入れました。



例えば SNS で見知らぬ人と出会い、家へ赴いてしまうことで発生するトラブルをテーマにした「#家出少女 その人、狼かもよ」では、童話“赤ずきん”をパロディしました。おばあちゃんのふりをして赤ずきんを食べようとする狼と、狼をおばあちゃんと信じて疑わず、食べられてしまう赤ずきんを家出少女の事例と重ねて描くことで、インターネットで知り合った人との対面交流の危険性を印象づけるという工夫をしています。



家出少女が増えているという情報は、活動内で協力していただいた京都府警察サイバー犯罪対策課の方から教えていただいたものであります。インターネットで調べることができる情報だけではなく、その分野を専門としている方から最新の情報を仕入れることができました。その時代や流行に対応できるような映像制作を心がけることも、インターネットの安心・安全を守るために必要な要素の一つだと考えています。

### 広報 啓発活動

制作した映像は、発信して世に伝えなければ自己満足で終わってしまいます。なので、自分たちなりにどのようにすればより多くの人目に届けることができるかを考え、実行することができました。

特筆したいのは、SNS 活動です。中でも、インスタグラムで授業の情報を発信し続けたことで、結果として“フォロワー 1000 人”と“ラジオ出演”などを達成することができました。これは、より多くの人に啓発活動を周知できただけでなく、現代における SNS の発信力がいかに重要なのかを実感することができた成果でもあります。アカウント開設当初の目標は、フォロワーをなるべく増やすというものでした。中盤なかなか伸び悩んだ時期、制作した映像の発信だけでなく、授業風景や撮影の裏側など、人に興味を持ってもらえそうな内容の投稿をする



など、工夫をこらしました。そうした結果、FM丹波ラジオ様から興味を持っていただき、自分たちの啓発活動をより広く周知できる機会を設けることができました。

他にもさまざまな形で団体の方々との協力をしたり、ポスター掲載やイベントを開催したりして、広報・啓発活動をすることができました。

## 3 プロジェクトを通じて

ネットトラブルが増え続けているにもかかわらず、私たちがネットの住民になるのを厭わないのはなぜか。ネットがないと生きていけない時代に、その危険性を啓発する映像に価値があるのか。これらは、1年間を通じて向き合ってきた問いの一部です。学部、学年の異なる12人の学生が集まり、ふとした時に議論してきましたが、納得できる答えは見つかっていませんでした。新たな気づきを得られたのは、年齢の異なる人たちと直接コミュニ



ケーションを取り、相手が想定外の反応を示した時でした。啓発する目的について2つ気づいたことがありました。当初は啓発活動を行う目的が、ネットを使うことが当たり前となりその危険性に意識を向けてもらうことにあると考えていました。しかしながら実際には、ネットの危険自体は元から理解していて、それ故にネットを使いこなせていない人もいるということがわかりました。正しく危険と向き合うことでネットの便利さを理解してもらえ、ネットリテラシーの向上に本質的に寄与できたと感じています。もう一つは、ネットトラブルの加害者に向けて啓発活動を行えなければ、映像の価値があまりないと考えていました。SNSの使い方について啓発活動を行った際、自分が加害者扱いされかねない使い方を無意識にしていたことに気づき、加害者の線引きができるようになったという感想を頂くことがありました。このことから、一人でも多くのネット利用者が、不適切な投稿に対して適切な対応ができるようになれば、自ずとネットトラブルは減少していくのではないかと希望がもてました。実際、日本中が熱狂したFIFAワールドカップにおいて、日本人選手に向けた誹謗中傷がいくつも見られましたが、その投稿に便乗するというより、選手を擁護し、投稿主を正しく指摘できる善良なネット住民が多くいることに感心したことが印象に残っています。一方で、不適切なユーザーに対して、正義を過剰なまでに振りかざす住民も散見され、新たなネットトラブルを生んでおり、まだまだ啓発活動を続けていく必要があると、襟を正されました。



### 編集後記

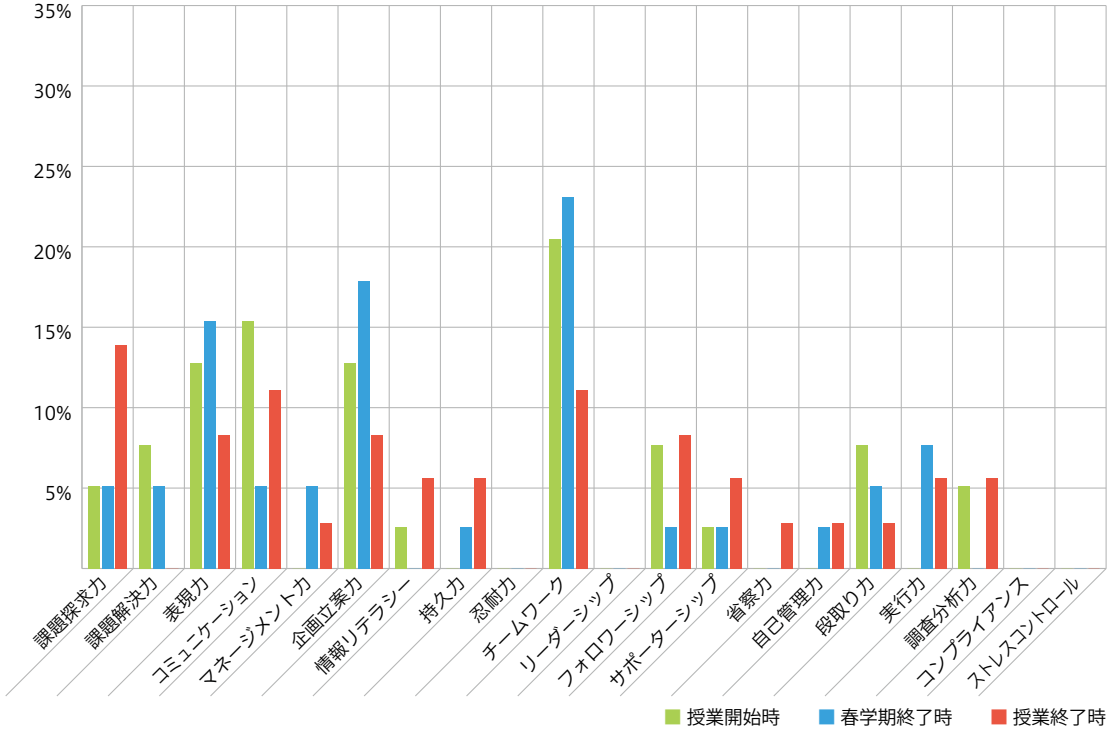
このプロジェクトは去年始まった比較的新しいプロジェクトであり、始まった当初はどのように動いていったらいいかわからない部分もありました。しかしメンバー全員で力を合わせて、最終的にはチームとして納得のいく作品を作ることができ結果として多くの動画を制作することができました。メンバーそれぞれが持つ強みを活かして役割分担をすることでチームプレイの大切さを実感し多くの学びを得る場とすることができました。最後になりましたが、1年間私たちのプロジェクトにご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### プロジェクトメンバー

長尾 圭亮(神4) 青木 秀平(文3) 林田 ゆずか(文3) 田巻 柚(文2) 橋本 さくら(社会3)  
糟野 怜菜(社会3) 明浄 尊翔(法3) 松波 颯雄(法2) 倉橋 竜平(経済3) 山根 真貴(経済3)  
石本 千明(商3) 福島 明日架(商3)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

